

しき、次に酒さんを供す、中央にすう、次に御右、次に御左、次に鏡、亦中央酒さき次に御右、次に御左、次にてうし参る、酒さんのふたとりのけて三獻参る、くはへなし、次第に撤す、平のはんばかりを撤して、たかつきをば打しきの中へ入て撤す、齒固は此ごろのは、ふるき圖などは格別のものなり、

〔厨事類記〕臨時供御内院 正月略御齒固、折敷高坏六本、如恒在打敷、平絹元三備進之爲

略儀之時、或元日或撰吉日、近代上旬元日中下旬二三日勤之、非例歟、三箇日上旬可勤之、

〔年中御祝儀記〕御齒固之御祝、但御鏡餅御菜御盃也、右は正月之内何日にてても吉日に一日上ル、内膳司調進之、

〔天明年中行事〕正月元日略御齒固、是は吉日を撰び、内膳司濱嶋氏より奉る、折敷高坏六本、糸松の飾りあり、其上に鏡餅、高盛御盃などするもの也、

〔嘉永年中行事〕正月朔日略御齒固、日時定らず、朔日ならば強供御の前に供する也、供する所も向はせ給ふ方も御陪膳も、皆強くごに同じ、先打敷を敷く、次に御酒壺を供す、次に御右、次に御左、次に御鏡、又中央酒壺の次に御右、次に御左、次に御銚子参る、酒壺の蓋を取のけて三獻供す、加し次第に撤す、平盤ばかりを撤して、高坏を打敷の中へ入て撤す、

〔類聚雜要抄〕御齒固

一供御御齒固、從内膳司貢定、自弓場殿獻之、從元日至三日

